

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「大空の心をもち、未来を自分でつくる日野南っ子」
 ○基礎・基本を身に付け、自分で考え行動し、解決できる子を育てます。(知)
 ○すすんで挨拶をし、自分を大切にし、人を思いやり、感謝する心を育てます。(徳)
 ○体力づくりを通して、心身ともにたくましく生きる子を育てます。(体)
 ○人とのかかわり協働し、夢や目標をもち、よりよい社会をつくる力を育てます。(公) (開)

教育課程全体で育成を目指す資質・能力

- ・自分を大切にする心
- ・人を思いやる心
- ・感謝する心
- (未来を自分でつくる力)
- ・自分で考え行動し解決する力
- ・人とのかかわり協働する力
- ・夢や目標をもち、よりよい社会をつくる力

具体化した資質・能力

- 自分を大切にする心
- 人を思いやり、感謝する気持ち
- 自分で考え、行動する力
- 人とのかかわり協働し課題を解決する力
- 夢や目標をもち、よりよい社会をつくる力
- 体力を向上させ、たくましく生きる力

中期取組目標

- 子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、主体的・対話的な学びを充実させます。
- ・1年目は、自分の思いをもち、仲間と考えを交流しながら学び、課題を解決する授業づくりを目指します。
- ・2年目は、身の回りから問題を見出し、仲間と学び合いながらよりよく課題解決する授業づくりを目指します。
- ・3年目は、夢や目標に向かって問題を見出し、仲間と学び合いながらよりよく課題解決する授業づくりを目指します。
- まちの「人」とのかかわりを大切に、豊かな経験をを通して、まちを愛する心を育てます。
- ・3年間を通して、まちの「人」とかかわる学習を設定し、友達と協働して、地域や社会に参画する姿勢を育てます。
- ・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感をもち、安心して学校生活が送れるようにします。

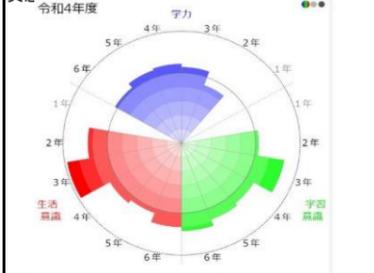
学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①学習の見通しをもち、人とかかわりの中で自分の考えを伝え合う力を高め、振り返りで学びを自覚できるように、主体的・対話的な授業づくりを工夫する。②重点研究の主題を「夢や目標に向かって問題を見出し仲間と学び高め合う子ども」とし、生活科・総合的な学習の時間を中心に、課題解決力や人とのかかわる力を育成する。
担当	学力向上: 大久保

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力にかかわる児童の実態
 学習意識が、昨年度に比べると大幅に上がり、市の平均を上回っている。
 生活意識は、昨年度よりやや落ちている学年も見受けられるが全体的には、全学年市の平均を上回っている。
 生活意識については、「横浜の時間では、地域と人とかかわりながら、より良い地域や社会を目指して活動していますか。」という設問に対して、「している、どちらかと言えばしている」と回答した児童が全体の約88%を占めた。

学力については、横浜市の平均と同等、上回っている、若干下回っている学年が見られる。教科間では差は見られないので、基礎・基本を確実に学習し、活用する力を伸ばしていきたい。
 (2) これまでの学校の取り組み状況
 まちとかかわりながら学習をすすめる、社会参画する活動に重点を置いていることで子どもたちの意識に変化がみられている。
 学習意識については、各教科を通して授業の目的を明確にし、ふり返りを大切にすることで学びの意味を実感できるように心がけてきたと言える。



今年度の目標

- 自分の考えをもち、友達の考えをじっくりと聴いて、自分の考えを確かにしたり変容させたりすることができる力を育成する。
- 身の回りから問題を見出し、仲間と学び合いながら課題を解決しようとする態度を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 【自分の考えをもち、友達の考えをじっくりと聴いて、自分の考えを確かにしたり変容させたりすることができる力を育成するために】
- ①学習の見通しがもてるように、単元のはじめに子どもたちとゴールを明確にし、学習計画を立てる。
 - ②自分の考えをもつことができるように、朝学習を中心に基礎基本を身に着けたり、課題に対して自分の考えをもつ時間を授業中に設定したりする。
 - ③友達の考えをじっくりと聴くために、「ペアやグループなど様々な形を工夫すること」「反応すること」などをどの学年でも実践する。
 - ④自分たちが考えでも、まずは受け止めることの大切さに気付かせ、友達の考えをきちんと聞く態度を育てる。
 - ⑤自分の考えの変容について、授業の終わりに振り返りの時間を設け、時間ごとの自分の考えの変容に目を向けることができるようにする。
- 【身の回りから問題を見出し、仲間と学び合いながら課題を解決しようとする態度を育成するために】
- ①課題づくりを丁寧に行い、学習の見通しをもてるようにする。
 - ②友達と意見を出し合い、問題解決を行い出前授業やまちの方など社会とかかわる学習や活動を体験的に行う。
 - ③試行錯誤を繰り返して、課題解決に向けて仲間と学び合いながらよりよく解決できる切実感のある課題を立てるようになる。

上半期

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
大空の心	①縦割り活動では、異学年の友達とのかかわりを大切に、相手を思いやる心や役割を果たして協働する姿勢を育てる。②人とかかわりを通して、自己有用感をもち、自分を大切にすることを育てる。③「ありがとうの会」や「感謝のつどい」、人権学習などを通して、自分を支えてくれた方たちに「感謝する心」を育てる。
担当	豊かな心: 兼田

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童生徒の実態
 ○物事に熱心に取り組む、最後まで達成しようという気持ちをもって活動している。また縦割り活動や地域の方など人との関わりを大切に、相手のために何かしようとする態度が育ってきた。しかし、自分の考えに自信をもち、行動することに課題が残る。
 ○教師が提示した課題には熱心に取り組むが、さらに積極的に課題を作り進めようという意欲が薄い。
 ○思いやりや優しさはもっているものの、リーダーとして、グループを引っ張っていくこととする強い気持ち・意思が生まれにくい。優しく、協力しようという気持ちはあるが、人の上に立ち、まとめようということに関しては遠慮がちで行動には現れない。今後もその点では教師の助言が必要である。

(2) これまでの学校の取組状況
 ○YPAアセスメントから、まだ自分に自信はもてないようである。自分を大切にすることが友達を大切にすることにもつながることを伝えてきた。また自信のもてる作業や学習、自分が納得できる活動を増やすことも、自己肯定感を高めることに徐々につながってきている。
 ○いじめアンケートを実施することで一人ひとりに面談をし、話を聞くことで日頃聞けなかった話を聞いたり、一緒に考えたりすることができ、児童の気持ちを一つの方法にもなった。
 <学校は子どもたちが自分を大切にできる気持ちを持つようになっている>



今年度の目標

- ① 異学年とのかかわりを大切に縦割り活動が充実するよう、活動の持ち方を工夫し、相手を思いやる心や協働する姿勢を育てる。② Y-Pの結果と日頃の観察を通して学級や個人の状態を把握し、横浜プログラムを生かし、互いに認め合える居心地のよい学級、学校づくりを目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 【道徳教育】
- ・道徳推進教諭が授業展開例を示し、道徳の時間の指導力向上を図る。
 - ・保護者に向けて、全学級が年一回は授業公開をする。
 - ・子どもが身につける道徳的価値をわかりやすく指導する。また、普段の自分の行動について自ら考えられるようなワークシートなどを使い、振り返りをしながら次の行動に生かしていくよう支援する。
- 【人権教育】
- ・個別支援級・一般級との連携を図り、児童・保護者間の理解をより深め、支援に生かせるようにする。
 - ・YPAアセスメント研修会の実施により、学級課題の改善や子ども個人の課題の改善に向けて校内の指導体制を整え、教師集団が「だれもが安心して豊かに過ごることができる学級風土づくりへ向けた協働ができるようにする。
 - ・縦割り活動で、子ども一人ひとりの思いに添った声かけや能力に応じた適切な指導に必要な支援が行われ、豊かな心が育ち充実した生活が送れるよう支援する。
 - ・まちの「人」とかかわる学習を設定し、体験的な活動を通して社会や地域にかかわろうとする心や感謝する心を育てる。
 - ・いじめアンケートを実施し、確認や経過観察などを丁寧に行い、全教職員で指導支援にあたる。
 - ・運営委員会の提案で子どもたちの挨拶運動が続いている。教職員も児童に挨拶の大切さを伝えるため、月初めの5日間を挨拶週間として、声掛けをする。
 - ・誰もが安心して学校生活を送れるよう、特別支援教室を開く。
 - ・縦割り活動やクラブ・委員会では、6年生のリーダーシップが育つよう全教職員でサポートしていく。

上半期

下半期

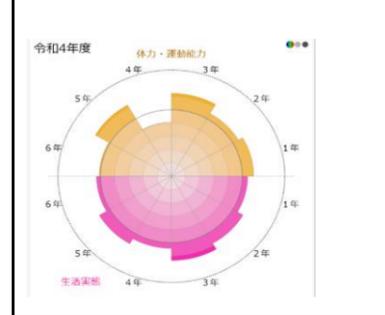
健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①毎週水曜日の中休みに体力アップを行い、児童一人ひとりがめあてをもって取り組めるようにする。②学校保健委員会では、家庭と連携し、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培うとともに、手洗い等の感染防止の習慣化を図る。
担当	健やかな体: 杉本

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童の実態
 令和4年度の横浜市体力・運動能力・運動習慣等調査結果によると、立ち幅跳びや20mシャトルラン、握力において平均を下回っている。瞬発的な力を出すような内容については評価が低く、そのような生活経験が少ないことが考えられる。長座体前屈の結果は平均以上となっているものの、身体の未発達による柔軟性の高さを示しているとも考えられることができる。小高い整備された住宅地に立地しているため、土地開発とともに公園も適所に配置され、遊ぶ場所は確保されていると言えるが、体を動かすなど運動につながる遊びをしている児童は限られており、また、地域のクラブチームなどを含め、習得的に運動やスポーツに関わっている児童は少ない。加えて、一週間の中で、ほとんど体を動かさない(運動していない)児童もいる。学校内では、数年前まで、外遊びが可能な日の休み時間に、校庭で鬼遊びやドッジボールをしたり、固定遊具などで遊んだりする児童が少なかったが、近年は、増加傾向にある。
 一方、生活意識については、朝食の摂取、睡眠時間などは、平均あたりを示しており、子どもに対する各家庭の意識は高いことがうかがえる。

(2) これまでの学校の取組状況
 これまで、「体力アップ」として、教員主導による、ラジオ体操を行ってきた。各動きの基本は身に付いたが、主体的に取り組んでいるとは言えなかった。また、コロナによって、運動が制限されたことによる影響も、やはりみられる。一方、後期に行った長縄による取り組みなどを通して、記録に挑戦してみんなで体を動かす楽しさを感じている。



今年度の目標

- 体力づくりを通して、心身ともにたくましく生きる子を育てる。(高学年) 体力づくりを通して、心と体のバランスを維持し、向上させる。(中学年) 積極的に運動に取り組み、心と体を鍛える。(低学年) 生活習慣を身につけ、体を動かす楽しさを味わう。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・体育科の授業では、めあてをもって、意欲的に取り組めるよう、場の工夫をしたり学習カードを活用したりして、自分から運動の楽しさを味わえるようにする。
- ・保健の学習を通して、健康・安全について理解し、自らの健康を適切に管理することの大切さを知り、その力を活用できるようにする。
- ・これまでの学習等で身に付けた運動能力を発揮し、児童自らが動きの高まりを実感できる場となるように、運動会や運動集会になるようにする。
- ・学校保健委員会では、子どもたちの健康づくりを促進するために、生活リズムの振り返りの取組を実施することを通して、日頃から指導している事柄を振り返り、定着を図ることができるようにする。
- ・長期休業中において、家庭での食事の後の歯磨きが定着するよう励行する。
- ・体力向上と運動習慣の形成を目指す取組として、水曜日の中休みに、「体力アップ」を行う。
- ・運動委員会が主催する運動に関する集会を、一年間に数回実施する。令和5年度は、短縄など、児童とともに考えた運動を実施する。

上半期

下半期